

経営比較分析表（令和6年度決算）

群馬県 渋川市

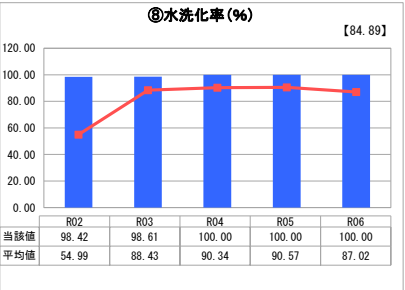
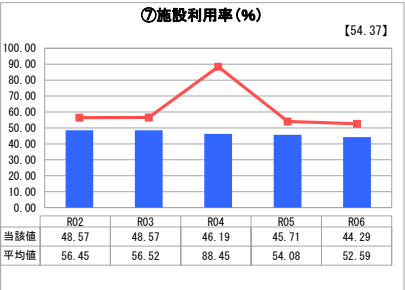
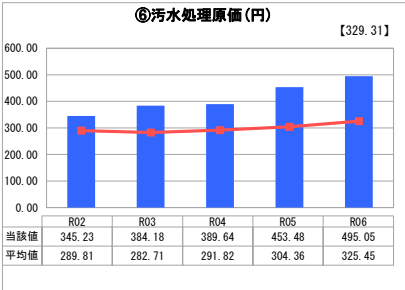
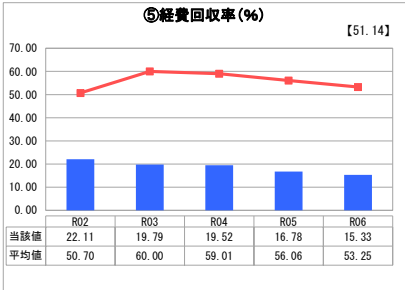
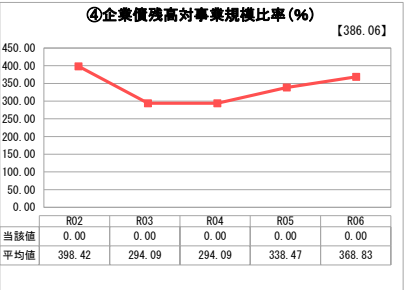
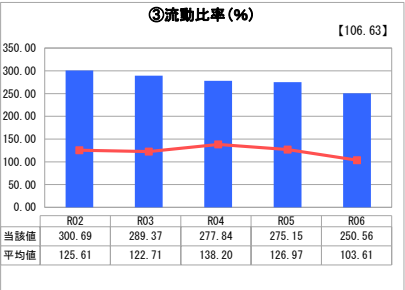
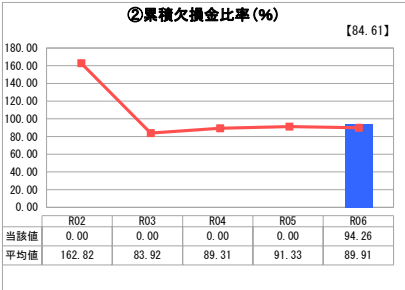
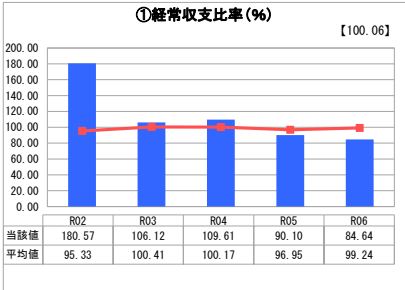
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	32.46	0.52	100.00	1,634

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
72,090	240.27	300.04
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
375	0.23	1,630.43

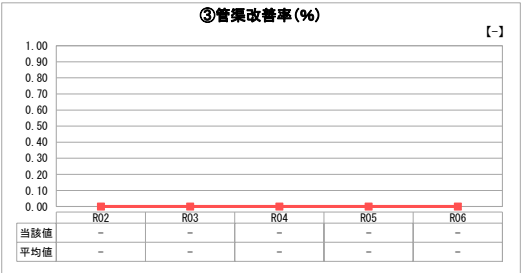
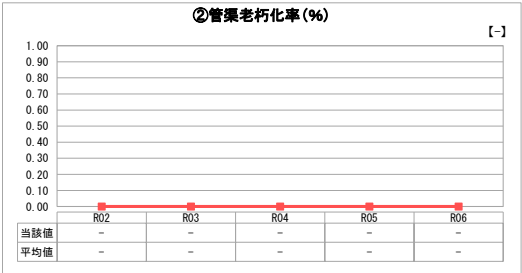
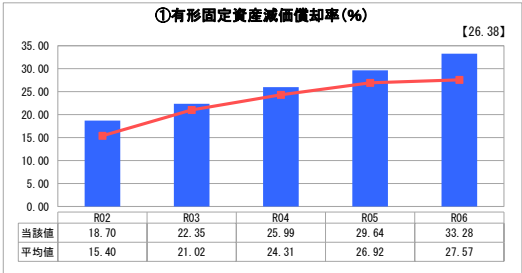
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
経常収支比率は100%を下回っており、営業損失が発生していることから、一般会計繰入金に頼った経営となっている。利用者の減少により使用料収入は減少、維持管理費の増加により汚水処理費は増加している。令和7年度に使用料改定を行ったが、今後も経営改善に向けた取組が必要である。

②累積欠損金比率
当期純損失を繰越利益剰余金で補填することができなかったため、欠損金が発生している。使用料収入が減少しており、汚水処理費は増加傾向にあるので、経営改善に向けた取組が必要である。

③流動比率
類似団体平均値や100%を大幅に上回っており、短期債務の支払能力に問題はない。

⑤経費回収率
類似団体平均値を下回っている。利用者の減少により使用料収入は減少し、修繕費の増加に伴い汚水処理費は増加している。一般会計繰入金に依存している。

⑥汚水処理原価
維持管理費の増加に伴い汚水処理費は増加しており、今後も平均値以上の推移が予想される。

⑦施設利用率
類似団体平均値を下回っている。施設の整備が完了していることから、利用者の減少により有収水量が減少傾向にあり、利用促進の働きかけをしても更なる上昇は困難が予想される。

⑧水洗化率
類似団体平均値を上回っている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
類似団体平均値を上回っており、老朽化が進んでいることがわかる。特に、機器設備類の更新が増加しており、維持管理費が増大していることから、計画的な更新が必要となる。

②管渠老朽化率
老朽化を示す指標はない。

③管渠改善率
老朽化を示す指標はない。

全体総括

平成18年度に事業着手した合併浄化槽設置事業で、平成29年度に事業完了しており、維持管理のみ実施している。生活排水処理施設整備計画策定マニュアル（環境省）によれば、施設の使用実績は、浄化槽躯体は30年～、機器設備類は7～15年程度と記載がある。実際に機器設備類の更新が増加しており、維持管理費が増大している。下水道使用料では維持管理費が随っていないことから、令和7年度に使用料改定を行ったが、今後も更なる使用料改定や経費削減等が必要な時期となっている。人口減少が進む旧村地域（子持・小野上）で実施した事業であり、浄化槽躯体の更新時期までに、事業運営の検討が必要である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。